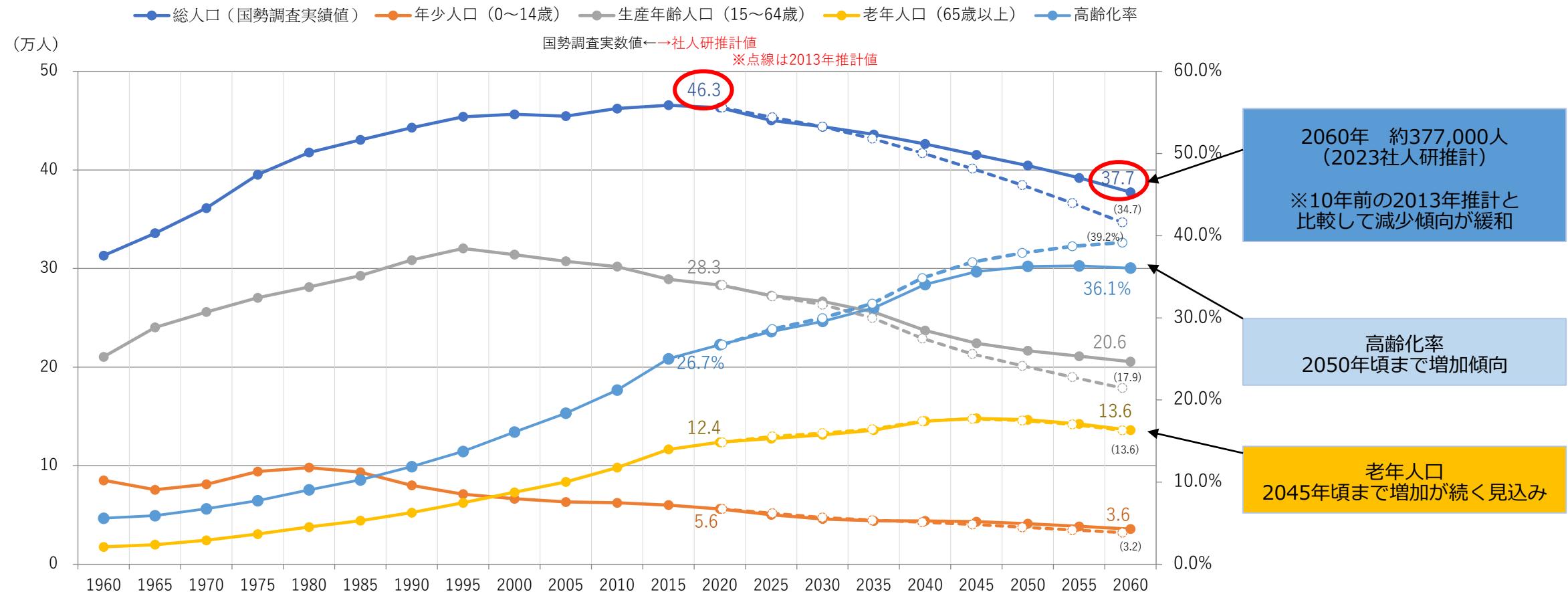


本市の人口動態の現況について

■ 人口動態の現況及び推移

- ・本市の人口は2018年以降減少となっており、2020年時点人口は約46万3千人（グラフ①）
- ・年齢構成別に推移をみると、年少人口は1980年代から、生産年齢人口は1990年代からすでに減少を開始（グラフ①）
- ・最新の社人研推計（2023年公表）によると、10年前推計値（2013年公表）より、人口減少予測が緩和（グラフ①）
→今後の人団動向を注視しつつ、更なる施策の検証・推進が必要

【①人口動態の現況について】

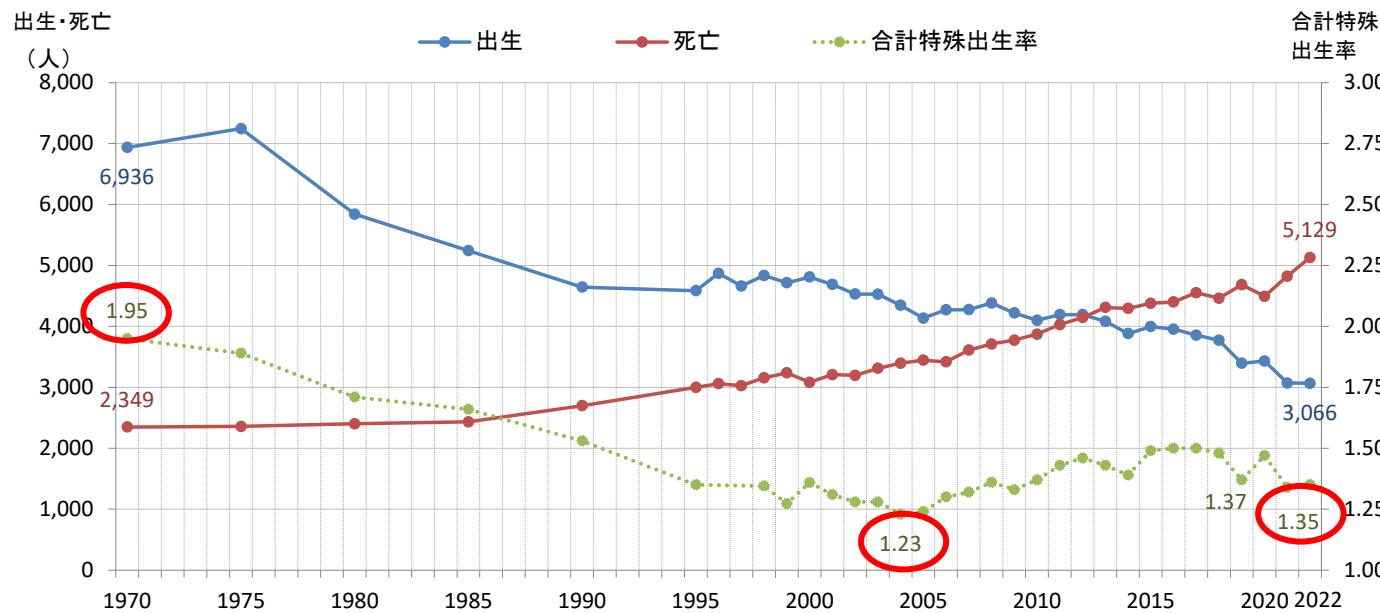


本市の人口動態の現況について

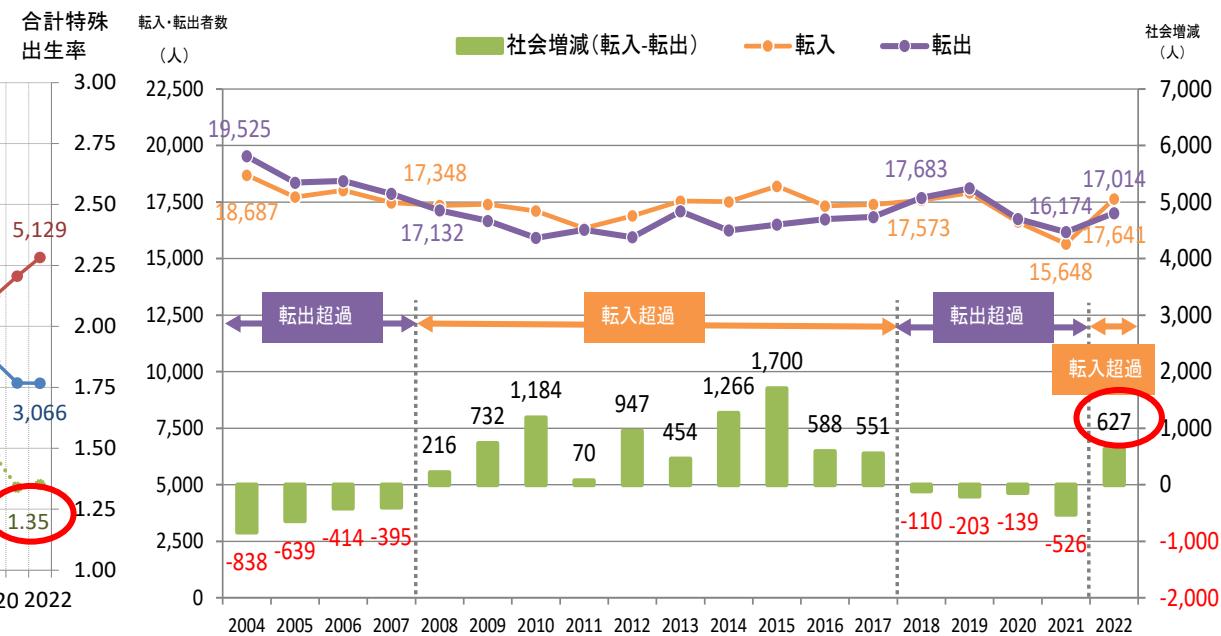
■人口動態の現況及び推移

- 合計特殊出生率は、1970年には1.95であったが、2005年に1.23まで大きく減少した。
- その後、回復傾向が続いているが、2019年以降は上下に変動し、直近の2022年時点で1.35となっている。(グラフ②)
- 市内の転入・転出者数は、2018年以降は転出超過が続いているが、特にコロナ禍により2020年以降は外国からの転入者が減少していたが2022年には解消され、大きく転入超過となっている。(グラフ③)

【②合計特殊出生率】



【③社会増減（転入出数）】

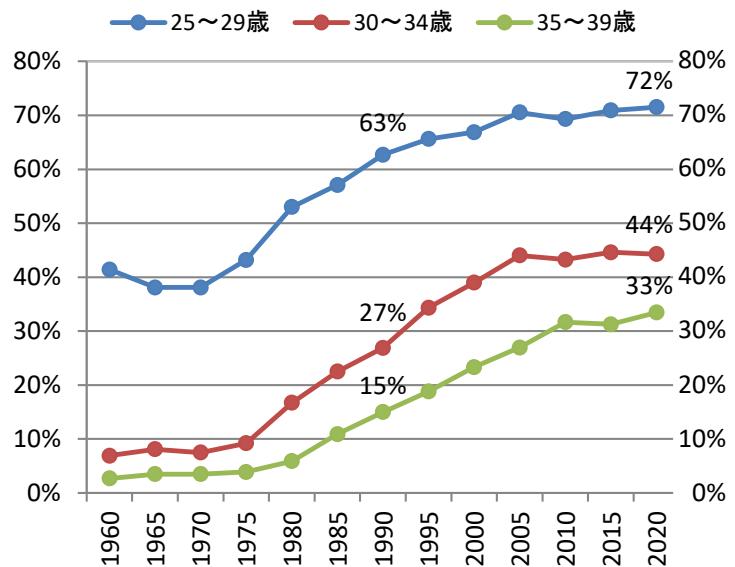


本市の人口動態の現況について

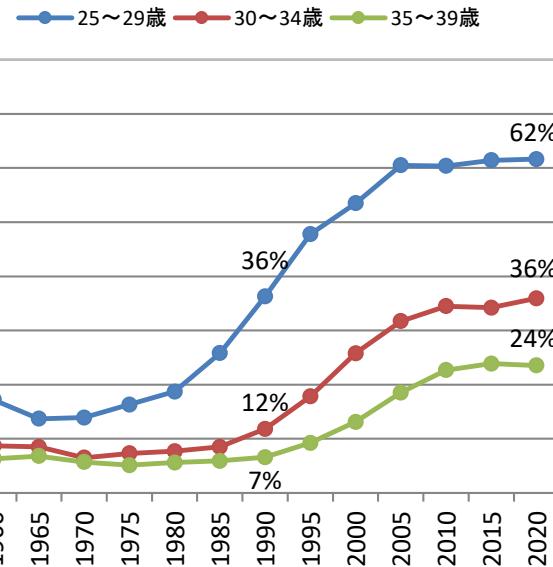
■人口動態の現況及び推移

- 未婚率は、1980年代から男女ともにすべての年齢区分で上昇し、30代後半の未婚率を2020年時点でみてみると、男性で約3人に1人、女性で4人に1人の状況となっている。（グラフ④）
- 女性の平均初婚年齢は、およそ25年間で3歳以上伸びている。また、平均初婚年齢の上昇に伴い、第1子出産年齢も上昇し晩産化が続き、2013年には30歳を上回り、それ以降は横ばい傾向となっている。（グラフ⑤）

【④男性の未婚率の推移】



【④女性の未婚率の推移】



【⑤女性の平均初婚年齢と第1子出産年齢の推移】

